

# アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、  
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 松山プレーオフ第1戦優勝

男子ゴルフ、アメリカカップ（PGA）の今シーズンのプレーオフシリーズが開催された。この1年間で開催された試合の優勝者や賞金ランキング上位の選手が、3試合行われるプレーオフで普通の試合以上に欲を出し、集中力を上げ、全力で勝負に挑む3試合である。第1戦で選出された上位70名の選手が、第2戦で50名に絞られ、第3戦目のトーナメントチャンピオンズでは、わずか30名の選手が優勝賞金12億（為替によって異なる）という凄まじい賞金を争い、さらには、この3戦でポイントランキング1位の選手が年間のPGA王者という歴史的な名譽を獲得することとなる。

テネシー州で行われたプレーオフ第1戦で、初日首位からスタートした松山英樹が、最終日、イーブンパーで回って通算17アンダーで優勝した。さらに、この勝利でアジア人最多勝に当たる通算10勝目を挙げたことになる。パリオリンピックで、わずか3打差で金メダルを逃し、銅メダルを獲得した好調ぶりは、今大会でも十分に発揮された。最終ラウンドで2位に5打差をつけて単独トップからスタート。日本でもゴルフの衛星放送を通して、ご覧になった方も多いと思うが、前半の9ホールを終了した時点で松山の優勝を確信したファンも多いと思う。ところが、やはりプレーオフというトーナメントのプレッシャーもあり、試合展開は松山にとって非常にシビアで、優勝までの道は薄氷を踏むものとなった。なんと、12番でボギー、14番のパー3でも池に入れてかろうじてボギー。さらに、続く15番では、なんとショットが乱れてダブルボギーとなり、この時点で

首位を明け渡してしまった。試合の流れが最悪となった松山だが、残る2ホールで17、18番となんと連続パーディーを奪い、信じられないほどの粘り強さをを見せてくれた。

人生においても、スポーツにおいても、あらゆる分野でたどる一流であるが、なからうが、精神力の強さが大きく運命を左右する。いわゆるメンタルの強さといわれるものが、一体どのように形成されるか分からないが、少なくとも必要なのは、人並み以上の苦労と、自分で納得のいく努力の積み重ね。そこから生まれるキャリアという実体験。この3要素が必要になってくるだろう。

松山の強さは、そういう意味で、マスターズチャンピオンというプライドから生まれてきたのではなかろうか。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。